

令和7年度 河北中学校 学校経営の方針

1 学校教育目標

つながりの中で自立する生徒の育成

本校は、学校創立以来、「創造」「克己」「協調」の校訓のもと「世の中のためになる人間の育成」を目指し、あたたかな地域の人々とのつながりの中で成長し、学校文化を継承発展させてきました。いつの時代も生徒たちは、学校で多様な他者とのつながり、互いに学び合い、切磋琢磨しながら自分を磨いてきました。今を生きる生徒も、素直で明るく、何事にも前向きに取り組む力をつけています。

しかし、コロナ禍の社会は物理的にかかわりあうことが制限され、そのことによって、人と人とのつながりや、地域とのつながりが希薄になってきていることは否めません。個別最適化と協働的な学びが推進され、ICTの活用によるリモート授業やタブレットでの学びによって学習スタイルも変容してきました。令和の日本型教育によって新たな学校文化も創り出されましたが、改めて人とのつながり、学びとのつながり、地域とのつながり、未来とのつながりを意識した教育を進めていきたいと考えます。また、中学校は「自立して社会に貢献できる大人になるための基礎づくり」の時期です。変化の激しいこれからの時代をたくましく生き抜いていくためにも、「つながりの中で自立」する力を意識して、指導・支援にあたっていきます。すべての教育活動を通して、自分から進んで物事にチャレンジする主体性や、努力と協力によって困難を乗り越えながらたくましく生きる力と、「人を好きになる力」を育成していきます。「仲間と共に生きる」学校の存在価値を明らかにし、ありのままの自分で、みんなと思い切って活動する喜びを味わわせます。さらには、社会に受け入れられながら自己実現を果たし、小さな幸せをみんなで共有できるウェルビーイングな学校づくりに努めていきます。より良く生きるために、人と学びと地域と未来とつながることの意味や価値に気づかせながら成長を実感させます。そして、河北中学校が河北町の希望になれるよう力を結集し学校経営にあたります。

【 自立する生徒の姿とは・・・ 】

- ① 自分の行いに責任を持ち、自分で考え、判断し、行動できる
- ② できること、できないことを自覚し、助けを求めることができる
- ③ それぞれの違いや立場を尊重し、相手を思いやることができる
- ④ 自分以外の人や社会のために自分の力を役立てようとする

2 「目指す生徒像」・「目指す学校像」・「目指す教師像」

1 目指す生徒像

気づき、考え、行動する生徒

自立する生徒を育てるためには、自分で課題に気づくこと（課題意識）、自分事としてとらえること（当事者意識）が大切です。「誰かがやってくれる」、「自分には関係ない」という姿勢ではなく、課題意識当事者意識を持って、自分で「気づく」ことのできる生徒を目指します。また、とらえた課題について指示を待つのではなく、どのようにして解決するのか、どう判断するのか、見通しをもって、自分で考え、判断し、主体的に行動できる生徒の育成を目指します。

2 目指す学校像

生徒も教職員も「元氣な学校」

明るくあいさつが飛び交う学校、歌声が響き渡る学校、生き生きとした学び合いのある学校、生徒会活動や部活動がさかんな学校、心身ともに健康な教職員、意欲的な教職員集団、笑い声のある職員室、何でも話し合えるあたたかな職場、そんな様子を「元氣な学校」という言葉に託しました。学校が元氣になることで、地域にも元氣を発信していきます。

3 目指す教師像

信頼される教師

「信頼のないところに教育は存在しない」と言われるように、教育の土台は信頼関係です。生徒からの信頼、保護者からの信頼、地域からの信頼が教育効果を高めます。そのためにも、教育に対する情熱と使命感、幅広い視野と確かな指導力、向上心と高い倫理観を持つ教師を目指します。信頼を失うような行為、言動が決してないようにします。生徒を「信じ」「待ち」「許す」姿勢を大切にして生徒と先生の関係が日本一あたたかい学校づくりを推進します。

3 「自立のために育む 資質・能力」について

① 自ら判断して行動するための「思考力・判断力・表現力」

- ・習得した知識・技能を活用して課題を解決するための力

② 自らを見つめ、向上させるための「自己調整力・レジリエンス」

- ・自分の感情や行動をコントロールする力。困難を乗り越える力。
- ・自分の学びを客観的に振り返って価値付けたり、課題を改善していく力

③ 互いを尊重し、高め合うための「コミュニケーション力」

- ・人の気持ちや感情、場の雰囲気にくみ取り、意思疎通ができる力。

④ 意欲的・主体的に学び活動するための「自己肯定感」「他者理解」

- ・ありのままの自分を肯定する、プラスに受け止めることができる感覚

学校教育目標の具現化に向けて、授業を柱として、様々な活動を通して育成していきたい資質・能力を「自立する生徒の姿」に対応する形で設定しました。もちろん、私たちが育成すべき資質・能力は多岐にわたるわけですが、本校ではこの4項目を特に意識して指導・支援にあたっていきます。

4 「生徒が育つ」4つの基盤

- ① 「居心地がいい」「居場所がある」
- ② 「できた」「わかった」
- ③ 「自分は役に立っている」
- ④ 「仲間とつながっている」

所属感・安心感

達成感・有能感

貢献感・有用感

信頼感・連帯感

5 経営の方針

- 1 中学校教育は「自立して社会に貢献できる大人になるための基礎づくりの時期」であることを意識して指導にあたります。
- 2 授業や生徒会活動、自治会活動、行事、部活動など、あらゆる活動において、教師主導から生徒主体の取り組みによって、「自立する生徒」の育成に努めます。
- 3 命を守る対策や感染症の感染防止対策に万全を期すとともに、安全安心を最優先にしながら、積極的な教育活動の実施に向けて、臨機応変に対応していきます。
- 4 教育活動の中心である授業の中で、生徒指導の三機能を生かしながら、生徒を育てていきます。
- 5 人と人とのつながりを大切にし、それぞれの立場や違いを尊重し合い、切磋琢磨しながら高め合える生徒集団の中で「人を好きになる力」の育成に努めます。
- 6 いじめは、どの子にも起こりうる。どの子どもも被害者にも加害者にもなりうるという危機意識を持ち、家庭、関係機関と連携しながら組織として、いじめ根絶に向けて全力で取り組みます。
- 7 学校の魅力度と生徒指導力を高め、不登校・問題行動をなくします。
- 8 小・中・高の学びのつながりを重視し、継続的な指導の充実に努めます。
- 9 校舎・校地の環境整備に努め、明るく落ち着いた教育環境づくりに努めます。
- 10 家庭や地域とのつながりを大切にし、地域とともにある学校づくりを推進します。
- 11 不易と流行を見極め、目的を明確にして、柔軟な発想で教育課程を改善します。

6 経営の重点

重点1：「信じ」「待ち」「許す」 生徒指導

(1) 居場所と出番、安心感のある学級づくり（教師による居場所づくりと生徒による絆づくり）

- ① 居場所（所属感）と出番、安心感のある学級づくりを進める。（生徒指導の三機能を意識した指導）
- ② 生徒と向き合う時間・機会を意図的につくる。朝の会の拡充、終わりの会の充実を図る。
- ③ ゆるやかな学年担任制を工夫し、チームで生徒を深く理解する。（ex:担任の交流：朝の会の実施）
- ④ あらゆる教育活動の中で、多様性を認め合う関係づくりによって、共生教育を推進する。
- ⑤ エンカウンターやソーシャルスキルトレーニング、レクリエーションを計画的に実施する。
- ⑥ 生徒指導提要进行を理解し、生徒指導力を高める。

(2) 生徒の心に寄り添う生徒指導・教育相談の充実

- ① 春・秋の教育相談期間、2学期末の三者面談を行い、生徒理解力を高める。
- ② 週1回、教育支援委員会を開催し、支援を要する生徒について情報共有しながら対応策を講じる。
- ③ 受容と共感、相談しやすい教師の姿勢を大切にして、生徒との信頼関係を高める。
- ④ 校務支援ソフト等を活用した迅速な情報共有に努める。

(3) 特別支援教育力の向上

- ① 支援を要する生徒に関する情報共有と個に応じた支援の充実を図る。（小中連携）
- ② 特別支援教育に関する研修機会を設定し、特別支援教育力の向上を図る。
- ③ ユニバーサルデザインを意識した教育環境整備に努める。

(4) いじめ根絶・不登校への対応

- ① 子どもの変化に気づける目を養い、生徒の姿と教師の姿を常に語り、深く生徒理解する。
- ② 組織的に迅速に、チームとして丁寧に対応する。
- ③ 生徒と家庭と、切れ目なくつながり、「親身」が伝わるように支援する。
- ④ 情報を共有し、関係機関との連携を密に図りながら全職員で対応する。

重点2：生き生きと学び合う授業づくりの推進

(1) 主体的・対話的で「わかる授業」づくり

- ① 生徒の主体的・協働的な探究型学習の授業づくりに努める。
- ② 個に応じた「学び方」と協働的な「学び方」の指導を工夫し、自己調整力の向上を図る。
- ③ ICT機器を積極的に活用し、個に適した学びに対応するとともに生徒のICT活用能力の育成を図る。
- ④ 学習の個性化、指導の個別化を図る。
- ⑤ 発達段階に応じた「聴く力・話す力」を高める。

(2) 進路実現への基礎基本の定着

- ① 教師の指導場面を設定し、学習内容を整理するとともに、反復学習にも取り組ませる。
- ② 「先生が好き」「勉強が嫌いではない」に向けて、教材と教師への興味関心を引き出す。
- ③ 個別指導を充実させる。

(3) 教師としての専門性・同僚性・人間性を磨く

- ① 学校研究体制を充実させ、目指す生徒の姿を共有しながら授業力向上に努める。
- ② 相互授業参観やOJTを機能させた校内研修を充実させ、同僚性を高める。
- ③ 教科部会を活性化させ、指導法や教材・情報を共有し、専門的な指導力の向上に努める。
- ④ 河北町教育研究所の研修機能を生かし、幼小中の交流を活発に行い、相互理解を図る。

重点3：自治力を高める活動

(1) 考えさせ「任せる」PDCA

- ① 生徒自身が、学校生活についての成果と課題に気づき、分析する力をつける。
- ② 改善までの取り組みを、生徒に任せる。
- ③ 生徒の主体的な活動を促し、問題解決能力・コミュニケーション力を高める。
- ④ 行事を生徒の手で企画・運営させ、有用感と達成感、連帯感を育む。
- ⑤ 全校集会や学年集会などで、生徒が前面に出て活躍する場を設ける。
- ⑥ 生徒会活動にJRC活動を取り入れ「気づき・考え・行動する力」を育てる。

(2) 苦戦・苦悩からの共感と成長

- ① 活動をできるだけ生徒に任せ、困難な課題についても自分たちで解決する力をつけさせる。
- ② 活動を通して、様々な思いに共感し、「絆」を実感させる。
- ③ 「苦しみ」「思い通りにならない」から、「努力と協力」の価値を知り、みんなでよりよい生活を送ろうとする力、社会的実践力をつける。

(3) 「一つになれる 一人になれる」活動場面の設定

- ① 学校行事や学年・学級の企画のねらいを明確にし、社会性を高める。
- ② 縦割りの異学年交流活動（集会や行事等）を計画的に実施し、リーダーの育成を図る。
- ③ 全ての生徒にリーダーを経験させ、自治活動を活性化させる。
- ④ みんなで活動する楽しさと「友情」に気づき、人を大切にする力と感謝の心を育てる。
- ⑤ 自分で考え、判断し、行動する経験を常々重ね、自分で生きていく力の大切さに気づかせる。

重点4：地域とともにある学校づくり

(1) 学校運営協議会と地域学校協働本部との連携

- ① 学校や地域の課題を共有し解決に向けての協働活動を推進する。
- ② 学校評価（自己評価、学校関係者評価、アンケート）を実施し、経営の改善を図る。

- ③ 地域学校協働活動として、職場体験や職業講話などの連絡調整を図る。

(2) 地域資源を積極的に活用する

- ① 専門性を持つ地域の方々を様々な場面で活用する。
- ② 地域とのつながりをテーマにした探究型の総合学習を実施する。
- ③ 河北町当局や河北町スポーツ協会と連携しながら、部活動の地域展開の体制づくりを進めていく。
- ④ 学校との協働活動を楽しめる「河北中サポーターズクラブ（仮称）」の具体的な活動内容を探る。

(3) 地域貢献活動を推進する

- ① 生徒会活動として、地域の課題を探り、ボランティア活動等の社会貢献について話し合う。
- ② どんが祭りをはじめ、地域行事への積極的な参加を促し、体験を通してふるさとの魅力を味わうとともに「ふるさと創生」に参画する。
- ③ 地域貢献をテーマに、谷地高校や小学校との協働活動を推進する。

重点5：心身の健康づくり

(1) 心身の健康を自己管理する能力を育成する

- ① 体力の向上、気力の充実、健康の保持増進のための指導を工夫し、自己管理能力を育てる。
- ② 生徒の心身の健康状態を詳しく観察し、生徒との対話を大切にして生徒理解、健康理解に努める。

(2) 基本的習慣の確立とメディアコントロール

- ① 心身の健康を自己管理できる生徒を目指し、早起きの習慣化やメディア利用の約束など生活リズムの確立について、生徒と保護者への啓発を図る。
- ② 家庭と連携し、規則正しい基本的生活習慣を確立する。
- ③ 生徒会が中心となって、SNS による様々な問題の解決に向けて取り組ませる。

(3) 自信と充実感を持たせる部活動を推進する

- ① 人間教育、キャリア教育の一環として、自己の役割を自覚し、思いやりの気持ちと充実感を持たせる主体的な部活動の運営に努める。
- ② 3つの「たい力」をつける。（体力、耐力、態力）
- ③ 「努力と協力」「希望と勇氣」「友情と感謝」を培う。

重点6：実効性のある働き方改革の推進

(1) 業務内容の精選（柔軟な見直し）

- ① 目的や効果を吟味し、柔軟な発想で業務改善を図る。
- ② 教育課程の創意工夫を図る。

(2) ICT と地域人材を有効活用

- ① ICT 機器を有効に活用し、授業に生かすとともに、事務的な負担軽減を図る。
- ② 授業や部活動、行事等に地域人材を活用することで、学校と生徒の良さを実感してもらうとともに、教員の負担の軽減を図る。新たな発見を楽しめる場でありたい。
- ③ 学校運営協議会で学校や地域の諸課題について検討し、解決に向けて連携して取り組んでいく。

(3) 持続可能な部活動に向けた部活動改革を進める

- ① 部活動方針を共有し、ルール（休養日、活動時間等）を徹底していく。
- ② 部活動の土日の地域展開へのクラブ設立に向けて、河北町教育委員会の主導のもと進める。